

第3章 第二次計画の基本方針

1 計画の目標と基本方針

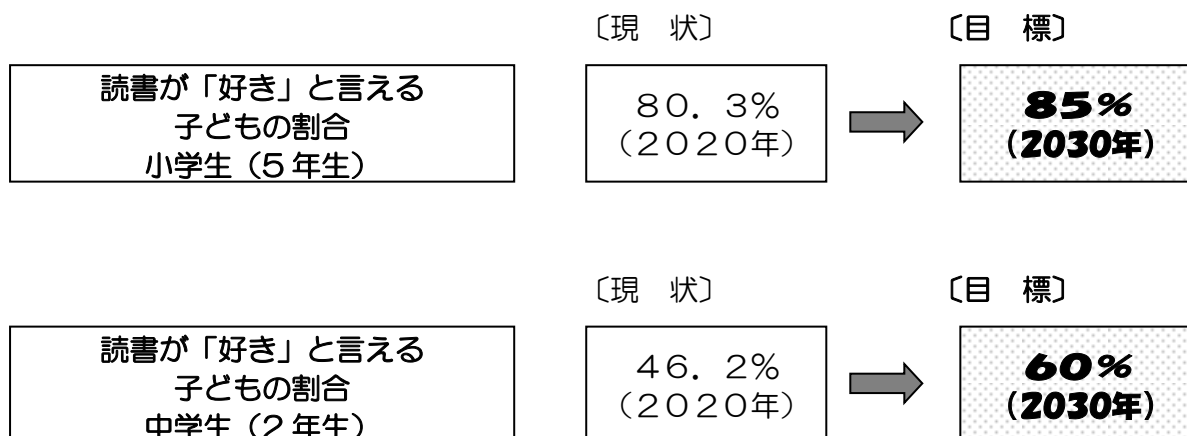
第一次計画の目的として、「山北町の全ての子どもたちが、自主的な読書活動を行えるよう、また子どもたちの成長に応じた読書のきっかけ作りや読書活動の習慣化に向けて、山北町における子ども読書活動にあたって、基本的な方針及び必要な関連施策、事業を明らかにして、子どもの読書環境の整備充実を図っていきます」と定めています。

第二次計画においても、第一次計画の考え方を“計画の目標”として継承し、「確かな学力」を身につけ、「生きる力」を育むことができるよう、子ども読書活動の指針となる計画の実現をめざして、取組みの目安となる努力目標を設定します。ここでは、「読書活動」の推進状況が一目で確認できる次の項目について数値目標を設定し、より多くの子どもたちが、読書活動に親しめていることを計る指数として検証します。

○ 【努力目標】 読書が「好き」と言える子どもの割合

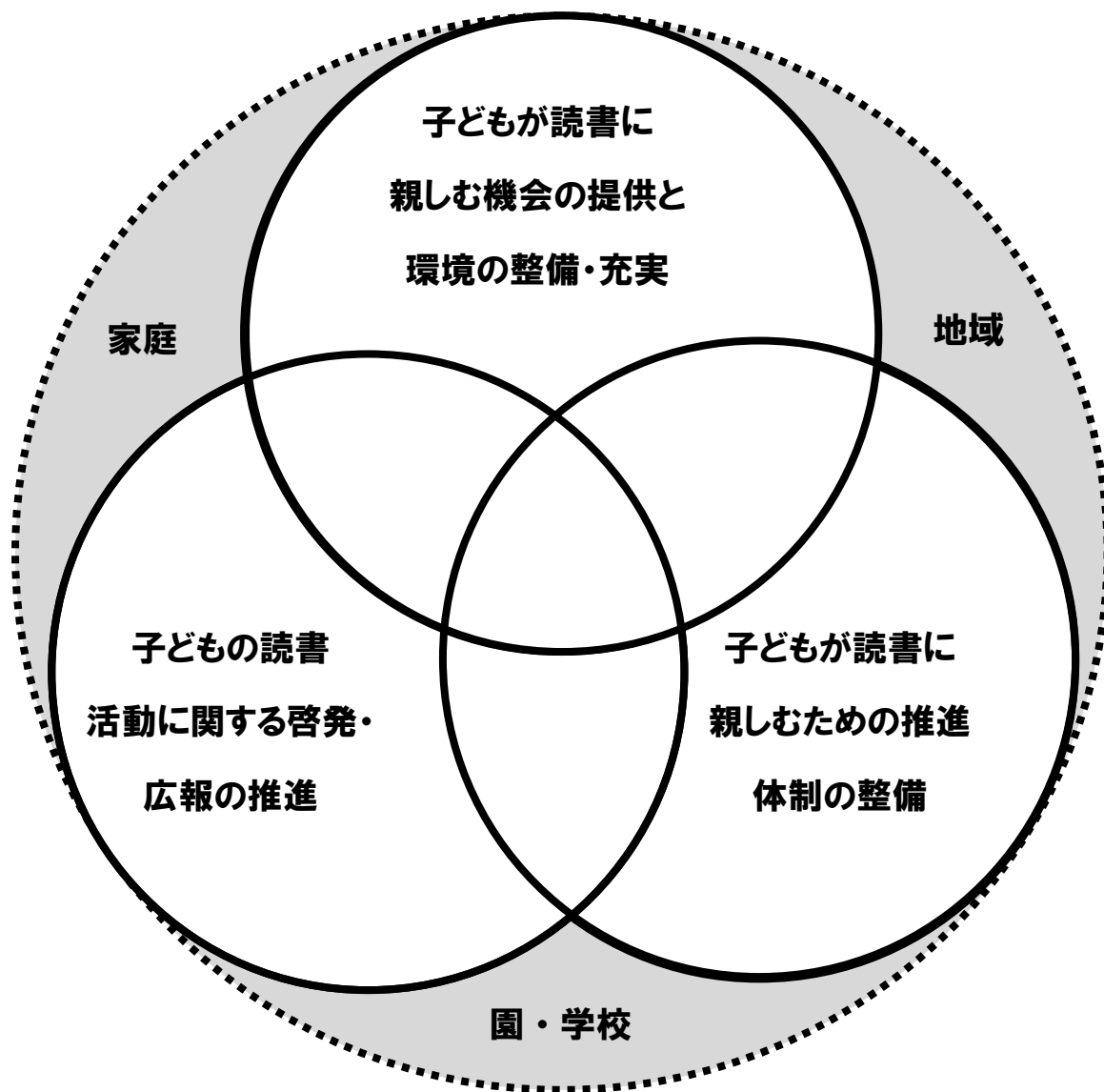
令和2年度に実施した「読書に関するアンケート調査」によると現状では、読書が「好き、どちらかという好き」といえる児童・生徒の割合は、小学生で80.3%、中学生で46.2%でした。これは平成30年度文部科学省委託調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」の全国平均小学生73.3%、中学生67.3%に比べて、小学生は高く、中学生は低い傾向にあります。

そこで、第二次計画では読書が「好き、どちらかという好き」といえる児童・生徒の割合について、次のとおり増加を目指します。



計画の目標を達成するために、読書アンケート結果と分析及び地域の実情を踏まえ、次の3点を基本方針として、読書活動の推進に努めます。

なお、本計画は、町行政をはじめとして、関係機関等との連携を強化し、施策の効果的な推進を図る必要があります。そのため、家庭を基盤とし、学校・園、各施設等、関係部署が情報を共有し、課題意識を持って第二次計画の推進を図っていきます。



2 評価・検証体制

10年後の期間終了時に、アンケート調査や「全国学力・学習状況調査」の結果により、今回掲げた計画の目標や数値目標の達成度を確認するとともに、山北町子ども読書活動推進委員会で評価・検証し、改訂の必要性等について協議します。